

令和 7 年 3 月 5 日開会

令和 7 年第 1 回木曾岬町議会定例会

行 政 報 告

町 長

皆様、おはようございます。

本日は、令和7年第1回木曾岬町議会定例会を招集、開会いただきましたところ、全議員ご参集いただき誠にありがとうございます。

今期定例会に上程いただきます議案は、令和6年度各会計の補正予算案、条例改正案、令和7年度各会計の当初予算案など、いずれも重要な案件でございます。何卒、十分なご審議をお願いいたします。

それでは只今、議長より許可をいただきましたので、行政報告をさせていただきます。

2月9日、前日の大雪の影響により全町民の皆さんを対象とした避難訓練は延期とさせていただきましたが、自主防災組織を対象とした避難所運営訓練を実施させていただきました。当日は、18組織、85名の方々にご参加いただき、実際に使用する避難所の図面を用いて、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくのかを疑似体験できるゲーム「HUG」（避難所運営ゲーム）を通して、自主防災組織それぞれが、避難所を運営していく際に、どのような課題があるのかなどを学んでいただきました。

なお、大雪の影響により延期とさせていただきました避難訓練につきましては、3月2日に実施し、700名を超える参加者の皆さんに、津波発生時の対応について確認していただくとともに、一人ひとりが平時・災害時に「何をすべきか」を考え、災害に対して十分な備えをしていただけるよう、町民の皆さんの防災意識の高揚と地域防災力の向上に取り組みました。

2月13日と14日には、愛媛県のおおずし<sup>せいよし</sup>市、西予市、うちこちょう<sup>うちこちょう</sup>内子町で開催された「タイムラインカンファレンス 2025 in

愛媛」に参加し、13日の定期総会では、国における防災対策の動向や被災者支援の取組などについて、情報共有や意見交換を行い、今後の取組方針の確認を行いました。

14日の午前には、<sup>ひじかわ</sup>肱川防災ステーションと鹿野川ダムを視察し、平成30年の西日本豪雨で<sup>ひじかわ</sup>肱川が氾濫し、甚大な浸水被害を受けたときの状況とその後の治水対策の取組状況について説明を受けた後、国土交通省の「NIPPON 防災資産」に認定された<sup>おと い かいかん</sup>乙亥会館災害伝承展示室を視察し、西日本豪雨の発災後から生活再建に向けた取組みの軌跡について、市民の語り部による実体験に基づく説得力のある説明を受け、言葉の一つ一つに深い感銘を受けました。

また、午後には、シンポジウムに参加し、関西大学の河田教授がコーディネーターを務められた防災活動に取り組む高校生とのトークセッションや、東京大学大学院の松尾教授がコーディネーターを、更に、元国交省水管理国土保全局長で京都大学防災研究所の井上教授がアドバイザーを務められ、地元市町村長などによる「持続性のあるタイムライン防災」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、最

後にタイムライン防災の推進に必要な人員拡充や、要配慮者等の避難計画の実行性確保、次世代への防災教育の推進を柱とするカンファレンス宣言を採択し、タイムライン防災シンポジウムを閉会しました。

以上のことを申し上げまして、行政報告と致します。